

鳥獣被害対策アドベンチャー フィールドワーク開催報告

フィールドワーク開催7エリアのうち、
東北 関東 東海
北陸 近畿 中国四国 **九州**

日時

令和6年11月30日～12月1日
(2日間)

場所

熊本県宇城市

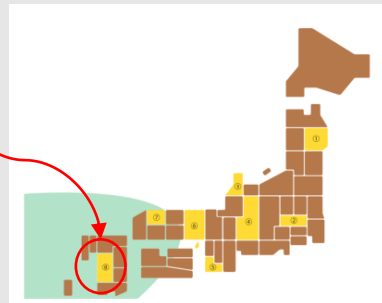
受入先

株式会社イノP

<https://farmer-hunter.com/>



受入先(株式会社イノP)のQRコード



参加者の声



- ・(株)イノPや農家ハンターの皆さんが、日々試行錯誤しながら活動を展開している姿を知り、大きな刺激を受けました。特に、データを活用した「見える化」や、地域の実情に即した対策を模索している様子は非常に印象的で、鳥獣被害対策が単なる被害抑制だけでなく、地域活性化に繋がる可能性を強く感じました。また、現場での課題として、法的な規制や手続きが鳥獣被害対策を進める上で大きな障害になっている実態を知り、衝撃を受けました。
- ・これほどまでにイノシシ・シカが増えて農業・林業に被害を与えているという事実を知りました。捕らえた獲物がその後、わずか20%弱しか食肉にならない事実を知って、考えさせられました。ジビエの解体施設の認証を取るための具体的な現実を学ばせていただきました。



フィールドワークスケジュール

DAY1 11/30 (土)

ガイダンス

13:00～13:30

事前の注意事項などの説明を受けた後、受け入れ先であるイノPの紹介、参加者同士の自己紹介を行いました。



座学研修

13:30～15:00

鳥獣被害対策講座「野生動物と基本対策」として、地域の鳥獣被害の現状、イノPが取り組んでいる鳥獣被害対策について説明を受けました。



体験フィールドワーク

15:45～17:00

地域に設置している箱罠及び捕獲されたイノシシの止めさしを見学。どのような設置、止めさしが有効か、自然環境のなかで具体的に体験しました。



意見交換 17:00～17:30

初日の振り返り、参加者の学びの共有、意見交換を行いました。その後、希望者のみで交流会を行いました。

DAY2 12/1 (日)

体験フィールドワーク

8:30～9:00

解体処理施設、イノシシの堆肥化設備などを見学し、受け入れ先よりジビエなど利活用に関する取組の説明を受けました。



体験フィールドワーク

9:20～11:00

生産者の圃場を訪れ、受け入れ先の指導のもと、電柵補修(通電性防草シート設置、設置のための清掃作業)ボランティアを行いました。



体験フィールドワーク

11:20～12:10

生産者より鳥獣被害、環境保護や地域の魅力について説明を受け、餌づけ防止のためにみかんの収穫ボランティアを行いました。



座学講義 12:40～13:10

受け入れ先のファミリーセッションのもと、参加者から2日間の学びや今後の活動に向けた考えや意見込みなどを発表いただき、共有を行いました。

